

よくある質問

Q1 発達障害は、親の育て方や家庭環境が原因なのですか？

A1 発達障害の原因は、まだ全てわかっていませんが、脳機能の発達が関係していると考えられています。

発達障害の特性は幼少期から見られることが多いので、気になることがあれば、家族で悩まず、早めに市町の発達支援センター・発達支援室（課）に相談しましょう。

Q2 身近な人が発達障害かもしれません。どうしたらよいのでしょうか。

A2 その人が何に困っているのかを考えた上で、サポートしたり環境を整えたりします。

生活に支障が出るほど問題が大きくなる前に、市町の発達支援センター・発達支援室（課）等に相談することも大切です。



より詳しい情報は

発達障害情報・支援センター



検索

世界自閉症啓発デー



検索

発達障害に関する相談は

市町の発達支援センター・発達支援室（課）

気になること、相談したいことがあれば、まずはお住まいの市町の相談窓口までご連絡ください。

発達障害者ケアマネジメント支援事業所

県内6つの圏域において、発達障害者支援に関する相談を専門的に担う職員が相談に応じています。

※県のホームページに市町の相談窓口一覧を掲載しています

滋賀県 発達障害関係

検索



滋賀県発達障害者支援センター

支援者の養成研修、事業所などへの助言、発達障害に関する情報提供や啓発を行っています。

相談先が分からない時は、身近な地域の相談窓口をご紹介します。

南部センター

草津市笠山8丁目 5-130 滋賀県医療福祉モール内
TEL:077-561-2522 FAX:077-502-2489
大津市・草津市・守山市・栗東市・野洲市・湖南市
甲賀市・高島市にお住まいの方

北部センター

彦根市日夏町字堀溝 3703-1 平和堂日夏店 2階
TEL:0749-28-7055
FAX:077-502-2489（南部と共用）
彦根市・長浜市・近江八幡市・米原市・東近江市
蒲生郡・愛知郡・犬上郡にお住まいの方

【発行】 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課
大津市京町4丁目1-1

TEL 077-528-3541 FAX 077-528-4853

みんなで考えよう

発達障害

発達障害は、本人の特性と周りの環境とのミスマッチにより、困りごとが生じている状態をいいます。特性は外見からはわかりにくいいため、誤解を受けやすく生きづらさを抱えている人も少なくありません。

わたしたち一人ひとりが本人の特性を理解し、関わり方や環境を相談しながら工夫することで、その人の困りごとを軽くすることができます。

発達障害について理解し、違いを認め合うことで、誰もがその人らしく生きることができる社会を一緒につくっていきましょう。

対人関係が苦手・こだわりが強い

「人との関わりにくさ」、「コミュニケーションのとりにくさ」、「特定のものへのこだわりや想像力のとぼしさ」といった特徴があり、自閉症、アスペルガー症候群などの広汎性発達障害こうはんせいはつたつしょうがいに分類されています。近年、それらのさまざまな状態をまとめて「自閉スペクトラム症障害」(ASD)と呼ばれるようになっていきます。

具体的には？

- 相手に合わせることがうまくできない
- 他の人とのコミュニケーションが上手いかない
- 言葉の表現や理解が独特
- 特定の音や光など刺激が苦手
- 急な予定や場面の変更が苦手
- 手順やルールにこだわるなど



対応のポイントは？

- 誰とでも付き合うことを目指すより、信頼できる人と交流する場を大切にします。
- あいまいな表現を避け、写真や絵、文字、具体的な物などを使って伝える。
- 音や光などの刺激が苦手であることを周囲に伝え、配慮した環境を整える。
- 予定の変更は事前に伝えておく。
- こだわりをすべてやめさせるのではなく、本人、身近な人の負担が少ないこだわりは残していく。 など



不注意・多動性・衝動性がある

「注意欠陥多動性障害」ちゅういけつかんたどうせいしょうがい、「注意欠如・多動症障害」ちゅういけつじょ(ADHD) などと呼ばれ、注意や衝動をコントロールする力が弱く、それが行動上の問題となって表れる状態です。

大人になると、計画的に物事を進められない、他のことを考えてしまうなど、症状の現れ方が偏し落ち着きのなさなどの多動性・衝動性は軽減することが多いとされています。

具体的には？

- 落ち着きがない
- 気が散りやすく作業が続かない
- 思いついたことをすぐ口に出したり行動に移したりすることが多い
- 提出物の期限が守れない
- 忘れ物やなくし物が多い など



対応のポイントは？

- 周囲の刺激が多い場所をさけて静かで刺激の少ない環境を整える。
- 行動力を生かせる活躍の場をつくる。
- 作業の優先順位をつける。
- 持ち物や作業のチェックリストを作成、複数の人でフォローアップする。 など

これらの特性が重なって表れている人も多く、状態は一人ひとり異なります。専門的な支援だけでなく、周りの人が、その人ができることや苦手なことに目を向けることが理解やサポートの第一歩です。

※このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれます。

読み・書き・計算等が苦手

全般的な知的発達に遅れはないものの、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」といった学習に必要な能力のうち、特定の能力を身につけたり活用したりすることが難しい状態で、学習障害(LD)、限局性学習症(SLD)などと呼ばれています。

具体的には？

- 言葉による指示や注意が理解できない
- 相手に伝わるように話すことができない
- 文字や行をとばして読んでしまう
- 形の似た異なる文字を書いてしまう
- 文字を書くとき枠からはみ出してしまう
- 簡単な暗算ができない
- 手がきでノートがとれない など



対応のポイントは？

- 写真や絵図など、見て分かる情報を付け加えて伝える。
- 自分の話したいことをまとめる時間を作る。
- 読む部分だけが目に入るように工夫する。
- 漢字練習などで書く量を調節する、書き込むマス目を大きくする。
- パソコンやタブレット等の機器を活用する。 など

